



●りんごの果実肥大状況

6月1日の調査では、ふじの肥大が管内平均で21.7ミリとなり、昨年よりも8ミリ程大きく推移しています(平年比:124.0%)。6月11日現在の状況は表1参照。

表1:管内の品種別りんご肥大状況 (6月11日調査)

品 種	横径 (単位:ミリ)					
	湯 口	紙漉沢	相 馬	平 均	昨 年	平 年
ふ じ	34.7	28.1	33.3	32.0	25.4	27.5
王 林	32.4	32.4	34.3	33.1	26.6	29.3
つがる	34.5	32.2	33.2	33.3	27.1	29.3

※平年値は過去10年間平均値

●今後のりんご作業(6月15日~7月15日)

●見直し摘果

花芽形成前の6月末を目標に見直し摘果を進め、適正着果に努めましょう。

●追肥は今月末まで

追肥を計画している園地では、樹勢や着果量に合わせて、6月末までに実施しましょう。

●徒長枝(バヤ)整理

徒長枝整理は薬剤の通りを良くし、葉や果実を病害虫から守ることに繋がります。徒長枝が混み合うとハダニ類のすみかにもなるため、不要な徒長枝は剪去しましょう。

●袋掛け

袋かけは早いほど着色向上の効果が高いため、遅くとも7月10日頃をめどに袋かけを終了し、被袋期間を75日以上確保しましょう。また、袋かけ前の薬剤散布は丁寧に行い、散布後5日以上経過してから袋をかける場合は、実洗いを行いましょう。

●注意すべき病害虫について

・腐らん病

発生が散見されています。見つけ次第速やかに処置して下さい。

・輪紋病

伝染源は枝幹部に形成されたいぼ皮病斑です。新梢及び1年枝での感染は6月上旬~8月中旬頃まで続き、7月に最も多くなります。

・シンクイムシ類

異常高温下では、薬剤防除だけで被害を抑えることが非常に困難となります。コンフューザーRをまだ設置していないところでは設置を急ぎましょう。また、果実への侵入を防ぐため、遅くとも7月初めにピレスロイド剤を使用して下さい。

◆マイナー害虫にも注意!

近年、ヨトウガやコガネムシ類、カメムシ類による果実被害も散見されています。園地の発生状況に併せて適期防除に取り組みましょう。詳しくは振興課まで。

(TEL 0172-84-3215)

水稲について

移植後の水管理は、天候の良い日は2~3cmの浅水にし、分けつを促進して下さい。低温が続く時

は5~6cmのやや深水にして稲を低温から守りましょう。

入水は夕方または早朝に行い、日中は田んぼの水をしっかりと暖めましょう。また、入水の際は除草剤の処理層が壊れないよう静かに入水を行って下さい。

●りんご病害虫防除暦 (第7回目~第8回目)

回数	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備 考
7	500㍓	7月上旬	ラピライト(水) 又はオーソサイド(水) サイハロン(水) ウララ(DF) カルシウム剤	500倍 800倍 2000倍 4000倍	注) 極早生品種がある場合は殺菌剤をオーソサイド(水)に変更する。
8	500㍓	7月中旬	ダイパワー(水) オンリーワン(F) トランスフォーム(F) カルシウム剤	1000倍 2000倍 4000倍	○褐斑病対策としてオンリーワン(F)2000倍を加用してください。

果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素からJA相馬村フルーツステーションをご利用いただき誠にありがとうございます。5月の果実販売動向をお伝えします。

イチゴについては各産地最終盤を迎える中、GWまでは売り場は確保されていきました。栃木県など関東産を主に取り扱う市場については最後まで安定した販売となりましたが、九州産を取り扱う市場では降雨が続く病気の広がりが見られたため価格は弱含みでの販売となりました。

スイカについては月の前半で熊本県産が例年より早く切上がり、後続の産地が出揃わない中で消費地の気温の上昇が重なり、月の中旬からは市場では不足感のある中での販売となりました。特にカット・ブロック売用の下級品の需要が高まり、上級品との価格差が縮まりました。全体としては引き合いの強い状況が続ぎ、安定した販売となりました。

メロンについては産地によって

出荷量にはバツつきがみられ、各地の市場でも潤沢な入荷となった市場もあれば、入荷量が増え切らないう市場もありました。スイカと比べるとスタートの売価設定が高かったため荷動きは鈍く、市場での販売価格は徐々に下げながらの販売となりましたが、末端での店頭価格はあまり下がらなかつたため消費は鈍く、厳しい販売となりました。

リンゴについてはですがサンふじは農協関係はGWまで、業者関係は月末まででほぼ終了となりました。総体量が減っていったため、段階的に在庫の整理も進み有袋ふじへと切り替わっていきましたが、サンふじとの価格差から有袋ふじについては鈍い荷動きとなっております。有袋ジョナについてもサンジョナがなくなるとともに販売開始となりましたが、こちらは流通量の少なさから比較的安定した販売となりました。

今後の展開ですが、スイカについては各産地で大玉傾向となつて

おり、安定した出荷が見込まれています。ただし熊本県産の次に主力となる鳥取県産が高値基調となつており、売り場は拡大しているものの荷動きが鈍い場合は若干価格を下げての販売となる可能性もあります。

メロンについても各産地にて順調な生育となつており、入荷量は増えていくと思われれます。スイカほどではないにしろ売り場は徐々に拡大しており、価格も下がってきているため、荷動きは良化していくと思われれます。

リンゴについては品種の選択肢がなくなつていく中で有袋ふじ・シナノゴールド中心の販売となりますが、気温上昇と主に冷蔵棚での販売となつていき、輸入果実が売り場の中心となつていくため、企画の組まれづらい36玉より大玉については厳しい販売が予想されます。それでも農協では本年度は比較的順調に出荷がされたため、6月いっぱいを目途に大方販売終了となる見込みです。7年産りんごの販売も最終盤となりましたが、少しでも有利販売を目指して市場動向に注視してまいります。

全農あおもりデータ (5/30 累計)

品 種	王林	サンジョナ	有袋ジョナ	サンふじ	有袋ふじ	シナノゴールド	その他	合 計
単 価 (円)	3,893	3,876	4,499	4,060	5,759	4,027	3,842	4,000
前 年 比 (%)	95	88	98	90	104	94	103	95
販売数量 (箱)	445,569	308,761	58,909	3,399,983	120,956	169,191	2,003,395	6,507,131
前 年 比 (%)	78	98	52	96	50	105	94	90

※10kダンボール1箱当りの数値となります

青年部通信



青年部では、5月19日にもち米の田植え作業と保育園の草刈・畑の耕起を実施しました。

今回の青年部事業には青年部員28名が参加し、田植えと保育園の草刈・耕起作業を同時に進めました。主に保育園にお子さんがいる部員が草刈り作業を担当するなど、役割分担を行った結果、昨年よりも早く作業を終えることができました。

また、草刈と耕起作業を行っている際には、保育園の中から園児たちが見学しており、お父さんが頑張っている姿を見て笑顔が溢れていました。これからは、園児たちがその畑でトマトやキュウリなどの野菜を育てていくようなので、元気に育ち、良い収穫を迎えてほしいと思います。

さらに、5月下旬頃には青年部夜間勉強会を開催し、りんごの歴史や台湾など海外の方が求めているものについて学びたいことができ、非常に有意義な内容であったと感

事務局 蒔苗 陸



じました。そのため、6月も引き続き開催できるように計画を進めていきたいと思っています。



いきいき女性部通信



5月27日、相馬こども園で年長児11人が野菜の苗植えを行い、女性部役員5人がそのお手伝いに駆けつけました。畑は、1週間前に

青年部が耕起して準備万端。当日は、畝を作って黒マルチを敷き、苗を植えやすくするために黒マルチに穴をあけて、苗を並べて準備OK。そこへ「よろしくお願いしますー」と元気いっぱい園児たちが登場しました先生と女性部員のサポートのもと園児たちは、「美味しくなあれ〜」と願いを込めながら、楽しそうに苗を植えていきました。

今年植えたのは、エタマメやピーマン、トマ

ト、パプリカ、サツマイモ、スイカ、ブロッコリー、カリフラワーなど盛りだくさん。今



事務局 堀井 裕子



年は、サツマイモパーティーするお楽しみも：

女性部員から「これから水やりやお世話を頑張つてね」と声をかけられると、園児たちは使命感に満ちた表情で「頑張つてお世話します！」と力強く答えてくれました。自分で育てて収穫し、おいしく食べる日まで子どもたちの賑やかな農園のお世話が始まります。



年長さんとみんなで記念撮影